

触媒の性能向上

京都大理学研究所の北川宏教授のグループは4日、燃料電池装置に用いられている金属ルテニウムの性能向上に成功したと発表した。家庭用燃料電池装置の省エネ化や耐用年数の延長につながる技術としている。

ルテニウムはレアメタルの一つ。燃料電池の反応で働く白金触媒に酸化炭素が付着して機

京大グループ 省エネ化に期待

は約180度以上で機能していたが、約160度でも触媒として働くことを確かめた。

より低温で動作が可能となり、省エネ化と装置の寿命を延ばすことが期待できる。

北川教授は「ルテニウム触媒は、さまざまな化学物質の合成や排気ガスの浄化などにも使われており、これらの機能向上も期待できる」と話している。

(松尾浩道)